

矢橋昇 著「交通随想集」第2弾

2018年11月中旬刊行予定

交通安全随想

交通を通して社会が見える II

— 民度としての交通安全 —

定価（本体1500円＋税）／四六判224頁・並製本
ISBN978-4-908454-24-0

交通安全随想

交通を通して
社会が見える II

民度としての交通安全

矢橋 昇
Noboru Yabashi



中日出版

モラルが高いと世界から評価の高い日本人、 こと交通に関するモラルは何故こうも低いのか—

年々、交通事故の死者数は減ってきているとはいっても、毎日の報道で事故の話題が上らない日はない。事故の全てとは言えぬが、その多くは一人ひとりの交通社会におけるわがまま・身勝手な振る舞いが招いているのではないだろうか。

事故を減らすための努力として、取締り強化ももちろん必要だが、日本人の「民度・文化・社会性・良識」の視点から交通安全教育の見直しを今一度、学校・企業・地域などで取り組んでみる必要があるのではないかと思う。55年余に亘り「交通」を通して社会・教育問題に取り組んできた著者の至言あふれる一冊です。

本書は、交通安全情報誌「AAKK」に連載した随想のうち、2010年から2018年の間に掲載された小文を71話抜粋し、一部加筆修正のうえ再録した随想集。

交通安全随想

交通を通して
社会が見える

民度としての交通安全

矢橋 昇
Noboru Yabashi



中日出版

第1弾 平成22年刊行
ISBN978-4-88519-364-4

プロフィール

矢橋昇（やはしのぼる）交通評論家・作家

昭和10年大垣市出身。東海ラジオ入社。アナウンサー・報道・制作を経て、交通安全・社会教育活動に専念するために独立。その方面の研究・講習・講演・執筆に取り組む。現在は、小学校での「交通マナーの授業」に取り組んでいる。

